

# 名古屋市内的子育て家庭における物に関する研究

## — 3Rの教育的観点による調査から —

Research on Objects in the Child Care Family in Nagoya:

Investigation about 3R seen from an Educational Viewpoint

水野道子 河野順子 奥田達也 村岡眞澄 横井一之

Michiko MIZUNO Junko KAWANO Tatsuya OKUDA Masumi MURAOKA Kazuyuki YOKOI

キーワード：幼児教育、家庭教育、3R、循環型社会

Key words : Early childhood education, Home training, 3R, Recycling society

### 要約

日常生活を送る上での身の回りのさまざまな物との付き合い方を、家庭においてどのように解決され幼児が学んでいるかを調べるために名古屋市在住の子育て中の親を対象に質問紙調査を実施した。2009年9月～11月にかけて保育園、幼稚園を通じて園児の家庭に調査を依頼した。1,016通の調査用紙を配布し、702通の回答を得た。回収率は、69.0%であった。

調査項目として、①物やごみに関する親の関心やしつけ、態度（9問）、②物やごみに関する幼児の行動（4問）、③物やごみに関する親の行動や対処方法（10問）、④ごみとりサイクルの意識を高めるための自由記述（1問）、を採り上げた。

本調査の結果、子育て家庭における物との付き合い方の実態が浮かび上り、概ね年齢が若い親ほどごみやりサイクルの取り組みには関心が低いことが分かった。さらに、幼児たちに対して環境への配慮が意識されるよう親の立場から身をもって教えることの必要性が分析された。

### Abstract

We carried out a questionnaire for child care parents resident in Nagoya to examine how parents solved and how children learned how to get along with various objects in home. We asked the families of kindergarteners for investigation through the nursery and the kindergarten in September and October, 2009. We distributed 1,016 questionnaires and got 702 answers. The recovery percentage was 69.0%.

Item of the investigation

1. Interest, discipline and the manner of parents' about an object and the garbage. (9 questions)

2. The infant's behavior about an object and the garbage. (4questions)
3. Parent's action and consciousness of solution. (10questions)
4. Free description to improve consideration of garbage and recycling. (1question)

As a result of investigation, we found that young parent's interest of garbage was low. Moreover it indicates that it is important for parents to show infants an awareness of the environment.

## 1. はじめに

近年、日本をはじめとした先進各国では、経済成長を目指す立場から大量生産、大量消費に軸足を置きつつも、持続可能な社会が是ではないかとする考えのありかたへと転換あるいは見直しを計り始めてきている。各自治体においても環境保全の立場から消費の結果としての住民や事業所が排出するごみに関する廃棄ルールを細かく決め実施している。政令指定都市名古屋市では、いち早く環境先進都市を目指し2000年8月、大規模自治体の中ではとりわけ厳しい廃棄ルールを定め市民に協力を求めた。名古屋市のこの取り組みは、他県に頼っていたごみの最終処分場（岐阜県多治見市の愛岐処分場）が近々飽和状態になることへの危機感から始まったものであったが、2000年4月に国の「容器包装リサイクル法」が全面施行され、ペットボトルだけでなく、紙製、プラスチック製の容器包装をリサイクルする仕組みができたことも一つの理由である。

容器包装リサイクル法では、容器包装の再生経費のみが事業者の負担であり、収集や選別の経費は市民の税金（市町村の負担）で賄われる。名古屋市をはじめとした市町村は、再生だけでなく収集や選別も事業者の負担で行うという「拡大生産者責任」の徹底を当初求め、市民に取り組みやすく実効性も高まる仕組みへの改善を国へ働きかけていた。これが実施されると、リサイクルにかかる全ての経費が事業者負担であるため、それは商品価格に転嫁され、使い捨て抑制の動機づけとなることが期待されたからである。実際、ドイツでは拡大生産者責任の考え方が徹底している。しかし、残念なことに10年経たが今もって日本においては定着させることができていない。

一方で、全国各地に最新のガス化溶融炉を導入したごみ焼却場が建設されてきている。ごみは燃やしても灰という新たなごみが生じ、埋め立て処理の大きな問題となっていた。この灰を資源化し減らす技術が灰溶融で、名古屋市では五条川工場が2004年に、鳴海工場が2009年に完成している。ごみ処理の切り札とも言われる技術であるが、確かに何でも焼却可能で、残さ（ごんさ）も激減させることができる。実際、従前不燃物とされていたプラスチックごみは2011年度から可燃ごみとして扱われることとなった。名古屋市のごみ問題は大きく解決に向かっていると考えられる。しかし果たしてどうなのだろうか。新たな疑問が生じてくる。容器包装材で包んだ商品や物は店頭にあふれ、子どもたちは豊富で安価な商品に囲まれて生活している。ペットボトル飲料もリサイクル出来るのだからと、親は購入することに躊躇することが少なくなっているのではな

いだろうか。

他方、学校教育で持続可能な社会とはという観点から小・中・高でも環境問題にかかわる教育内容が取り上げられるようになった。リデュース（削減する）、リユース（何度も使う）、リサイクル（再利用）とした3Rだけでなく、5Rや7Rへと物の利用を再考させ、そもそも物の削減を呼び掛ける言葉を学んでいる。また、名古屋市内の幼稚園や保育園では2005年より年間を通して環境保全への取り組みが進められている（なごやエコキッズ事業）。

家庭においては大人の示範行動が子どもの模倣行動を促進することも考えられる。例えば子どもがお菓子の包み紙を何のためらいもなく捨てる行動は、大人がタバコなどをポイ捨てる行動が示範となり模倣の表れと見ることもできる。子どもは環境からの影響を受けて様々な行動や意識を内在化している。

ごみや物の扱いへの感受性を子どもに涵養するにも、幼児期早期からの適切な方向付けが求められる。本研究は、育みの場である家庭での「物」との向き合い方の学習が生活の中で子どもたちのごみやリサイクル意識形成に影響を与えているのではないかという観点に立ち分析・考察することを企図しており、名古屋市内的子育て家庭における物との関わり、付き合い方の調査と実態から教育的方向付けについて具体的な示唆が得られるものとする。

## 2. 調査

### 1. 調査の目的

名古屋市のごみ減量への取り組みを受けて、未来を担う子どもたちのごみ減量やリサイクル意識の育成に求められることは何かを探るため、名古屋市内的幼児をもつ家庭での物とのかかわり、付き合い方について調べることを目的とした。

### 2. 調査項目

- (1) 物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度について。(9問)
- (2) 物やごみに関する子ども自身(幼児)の行動。(4問)
- (3) 物やごみに関する親自身の行動や対処方法。(10問)
- (4) ごみとリサイクルの意識を高めるための自由記述。(1問)

### 3. 調査方法

- (1) 調査地域 名古屋市内
- (2) 調査対象者 名古屋市内的幼稚園や保育園に通園している子どもをもつ家庭の親 1,016名
- (3) 調査期間 平成21年9月～11月
- (4) 調査手続き

物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度（9問）、物やごみに関する子ども自身（幼児）の行動、物やごみに関する親自身の行動や対処方法（10問）、ごみとリサイクルの意識を高めるための自由記述（1問）からなるアンケート用紙を作成した。各質問について4段階で評定した。

名古屋市内16区の幼稚園および保育園に調査を依頼し、承諾を得た6園（幼稚園3園、保育園3園）の全世帯に、園を通じて、アンケート用紙を家庭に配布してもらい、アンケート用紙に記入後、回収をした。アンケート用紙の回収数は702で、回収率は69.0%であった。

### 3. 調査結果及び考察

本調査では、家庭での物やごみとの付き合い方を伺い、子どもが家庭で物やごみに対してどのように対処しているか、またリサイクルに対する考えも合わせて調査や自由記述として回答者に記入して頂いた。その結果を1.実態、2.物やごみに関する子ども自身の行動に関連する要因、の2つの観点から分析する。実態については、調査対象者の基本属性を示し、続いて設問毎に調査者全体に占める人数割合、親の年齢別による人数割合、それぞれ両方を照らし合わせて読み取れる事柄を記した。また、50歳代の人数が1名のみであるため、50歳代の調査結果に関しては、参考程度とした。また、物やごみに関する子ども自身の行動に関連する要因については、親の関心や態度および物の取り扱いや対処行動との関連から考えることとした。

#### 1. 調査対象者の基本属性

回答を回収できた調査対象者は702名であった（女性679名、男性21名。欠損値2）。

表1～表4に、年代別人数とその割合、子どもの年齢とその割合、子どもの性別、在籍園種について示した。

表1. 調査対象者の年代

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20歳代	60	8.5	8.6
	30歳代	533	75.9	76.1
	40歳代	106	15.1	15.1
	50歳代	1	.1	.1
	合計	700	99.7	100.0
欠損値	システム欠損値	2	.3	
合計		702	100.0	

表2. 子どもの年齢

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0歳	3	.4	.4
	1歳	11	1.6	1.6
	2歳	21	3.0	3.0
	3歳	97	13.8	13.9
	4歳	214	30.5	30.7
	5歳	234	33.3	33.5
	6歳	118	16.8	16.9
	合計	698	99.4	100.0
欠損値	システム欠損値	4	.6	
合計		702	100.0	

表3. 子どもの性別

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	女の子	345	49.1	49.9
	男の子	346	49.3	50.1
	合計	691	98.4	100.0
欠損値	システム欠損値	11	1.6	
合計		702	100.0	

表4. 子どもの在籍園種

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	保育園	208	29.6	29.8
	幼稚園	491	69.9	70.2
	合計	699	99.6	100.0
欠損値	システム欠損値	3	.4	
合計		702	100.0	

## 2. 物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度について

Q1：あなたは現在、ごみとリサイクルの取り組みに関心がありますか？

ごみとリサイクルの取り組みへの現在の関心度を尋ねたところ、全年齢を通じて関心が高く、関心があると答えた回答者は全体の8割を超えた。その一方で親の年齢が若いほど関心の薄い層が増加している傾向が窺えた（図1）。

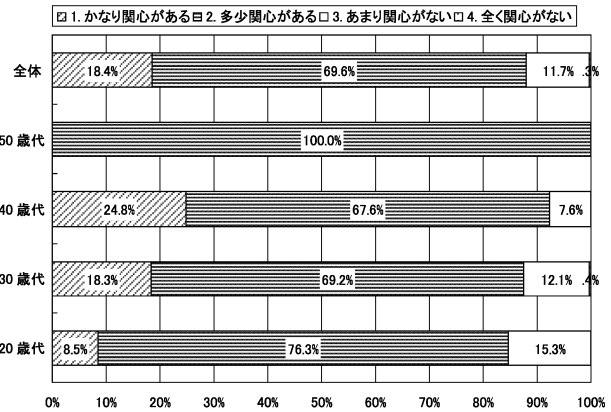


図1. ゴミとリサイクルの取り組みへの関心

Q2：あなたは子どもをもつ前からごみとリサイクルの取り組みに関心がありましたか？

子どもをもつ前のごみとリサイクルの取り組みへの関心度をみたもので、親の年齢が若くなるにつれて、関心がある及び多少関心がある、の両方を合わせた人数割合が減少していた（図2）。

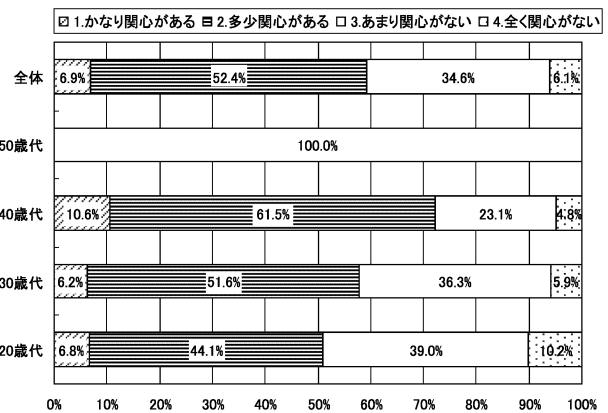


図2. 子どもをもつ前のリサイクルの取り組みへの関心度

Q3：日ごろ子どもさんにものを大切にするように言っておられるほうですか？

子どもに対してものを大切に日頃ことばがけをされているのかどうかについて尋ねた。その結果、ことばがけをしている、していないの按分は全年齢を通じてほぼ半数ずつに分かれた（図3）。

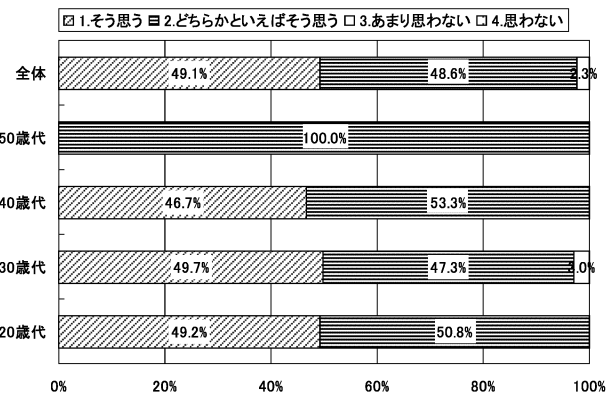


図3. 子どもに「物を大切に」ということばがけ

Q4：あなたは片付けを大事だと思えますか？

片付けは大事かどうかについての設問では、そう思う及びどちらかと言えばそう思うを選択した回答が9割を超えほぼ大勢を占めた（図4）。

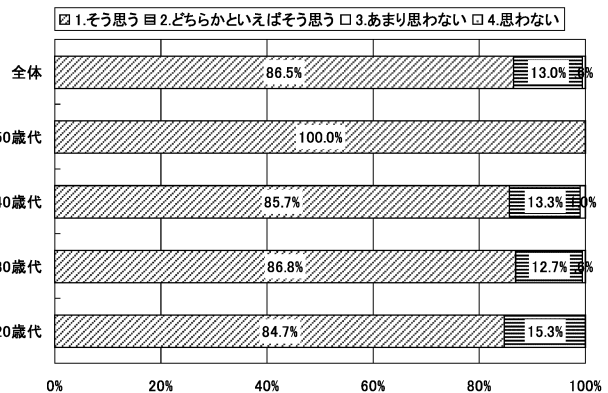


図4. 片づけを大切に思う程度

Q5：子どもさんが片付けをしない場合、どのように対処していますか？

子どもが片付けをしない場合の対処の仕方をお尋ねした設問の回答では、概ね7割超の方が、子どもと一緒に、または褒めたり励ましたりして片付けさせるようにしていることが読み取れた（図5）。

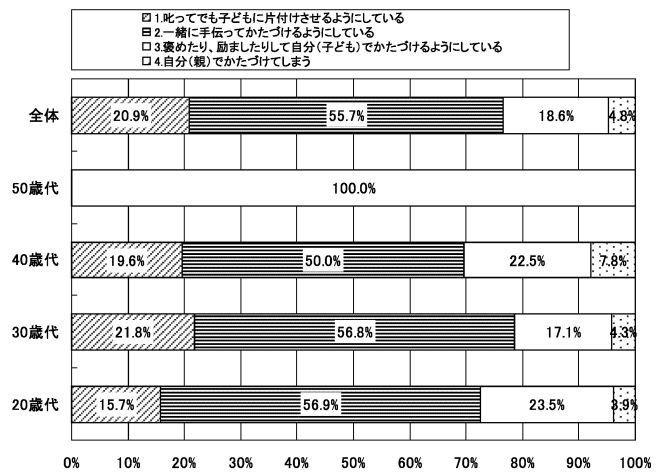


図5. 子どもが片づけをしない場合の対処法

Q6：大人のごみやたばこのポイ捨てをどう思いますか？

ごみのポイ捨てについての是非をお尋ねした設問においては、全体では7割を超える方が容認できないという回答を選択された。ただ、20歳代の年齢層ではほかの年齢層よりも容認できないという回答を選択した人数が少ないことがわかった（図6）。

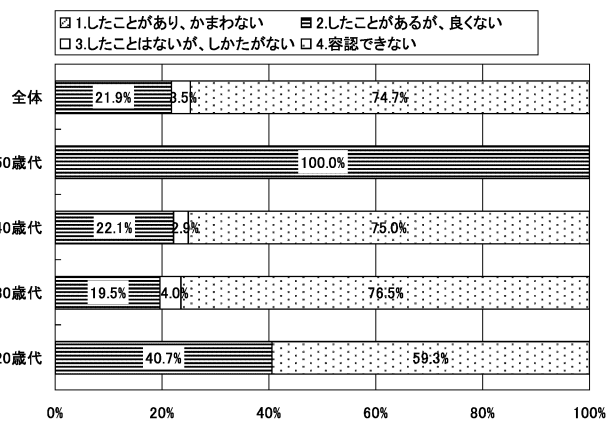


図6. ゴみのポイ捨て是非

Q7：他の大人がごみのポイ捨てをしているのを見た時、あなたはお子さんに真似をしないように言いますか？

他の大人がしたごみのポイ捨てを見てご自分の子どもにしつけをされているかをみる設問では、9割以上の方が真似をしないよう子どもにことばがけをしていることが認められた（図7）。

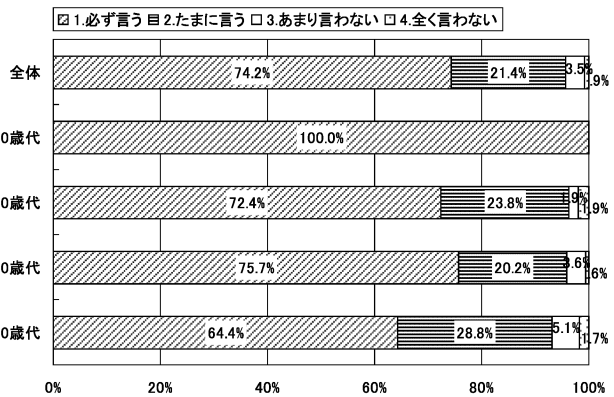


図7. ゴみのポイ捨てを見て

Q8：あなたは、子どもさんがごみを分別するよう手助けしておられますか？

子どもがごみを分別する時の親の手助けについての回答は、8割を超える方が機会をとらえて日常的にしつけとして配慮をしていることが窺われた（図8）。

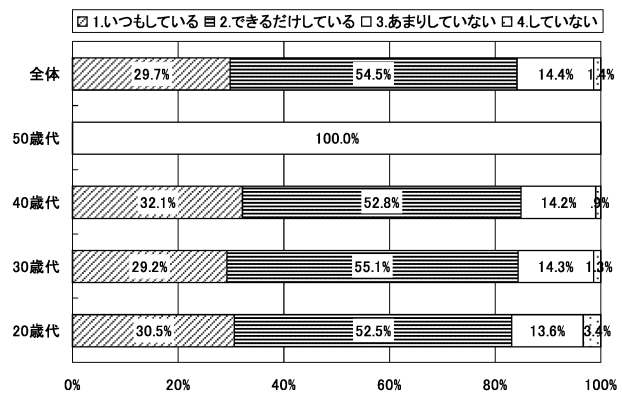


図8. 子ども分別時の親の手助け

Q9：子どもさんの行いに対して、「もったいないよ」と口に出して言うことはどの程度ありますか？

子どもの行いに対して「もったいない」と口に出して言うかどうかについての設問であるが、よく言う、どちらかというと言う、を両方合わせると、9割の方々が選択されていた。そのことから「もったいない」の言葉は、幼児の親の世代では、日常的に用いられていることがみてとれる（図9）。

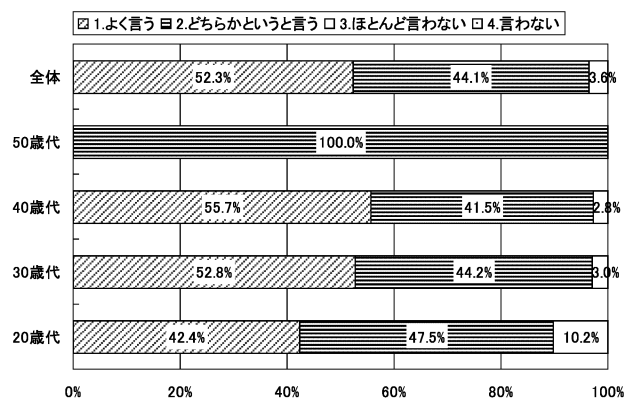


図9. 子どもの行為に対する「もったいない」という諭し

### 3. 物やごみに関する子ども自身（幼児）の行動

3歳児以上と3歳児未満児とでは、大きく回答の傾向が異なることが認められた。幼児の発達との関連から別々に分析する必要があると判断される項目群であった。

Q10：子どもさんはお菓子の包みはごみ箱に捨てていますか？

菓子の包み紙をごみ箱に捨てているかの設問の回答では、3歳児以上の各年齢層では選択された回答には概ね同様の傾向が認められた。3歳児以上に関してはほぼ9割が、ごみ箱に捨てていると回答していた。3歳未満児については回答のばらつき

がみられたが半数超の方が、積極にごみをごみ箱に捨てる行動を援助していることが窺われた（図10）。

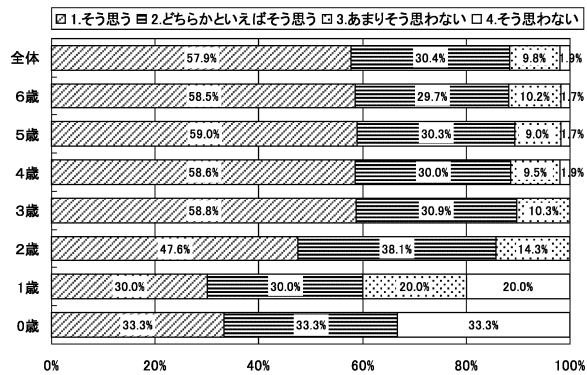


図10. 包み紙をごみ箱へ捨てる

Q11：子どもさんはものを大切にしていると思いますか？

子どもは物を大切にしているかどうかの設問の回答では、0歳児を除いて子どもの年齢が上がるにつれて物を大切にしているとの親の評価も上がっていることが認められた。幼児期の物の取り扱い方は、日常のなかで年齢を追って会得していくものであることが読み取れた（図11）。

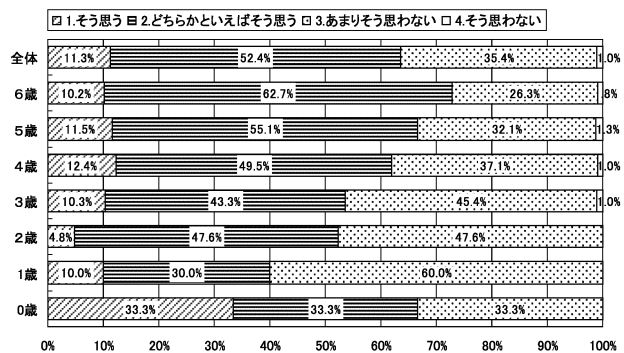


図11. 子どもはものを大切にしているか



Q12：子どもさんは片付けをするほうですか？

子どもは片付けをするかどうかの設問では、3歳児以上の年齢層では、片付けをする子どもが半数を占めることがわかった（図12）。

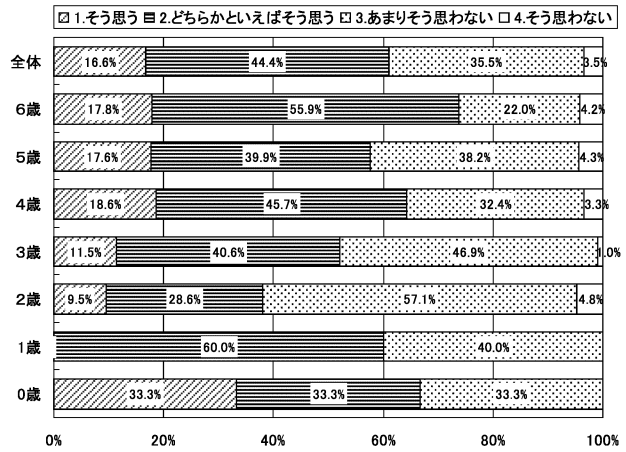


図12. 子どもは片づけをするか

Q13：子どもさんは「もったいない」という言葉の意味をどの程度理解していると思われますか？

子どもはどのくらい「もったいない」という言葉を理解しているかについては、3歳児以上の年齢層では7割を超えるやや高めの割合をどの年齢層でも同程度で示していた。3歳未満児については、親の評価にばらつきがみられた（図13）。

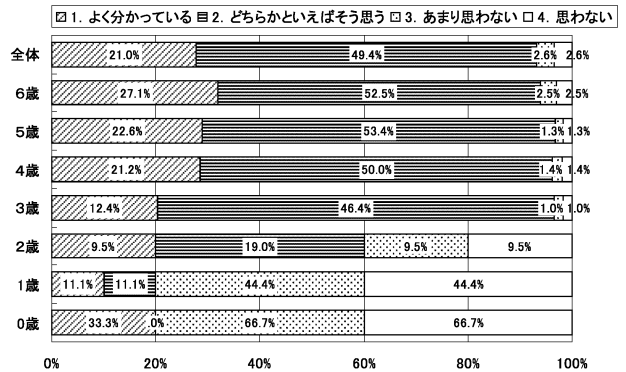


図13. 「もったいない」のこぼの理解度

#### 4. 物やごみに関する親自身の行動や対処方法

Q14：家庭内に子どものおもちゃは多いと思いますか？

Q15：家庭内に子どもの服は多いとおもいますか？

Q16：家庭内に物は多いですか？

Q14 及び Q15 及び Q16 については、家庭内の物の量の多寡について

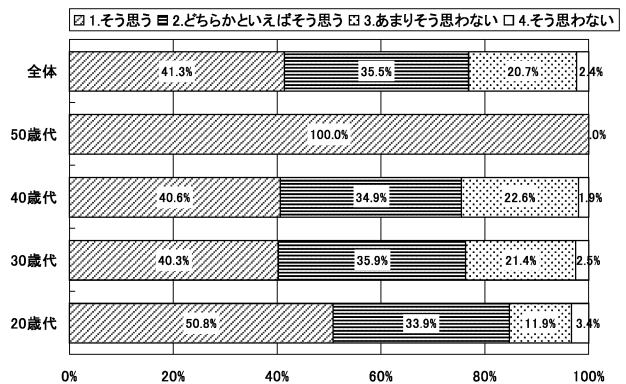


図14. 子どものおもちゃは多いか

の実感を尋ねる項目である。家庭内には子ども用品を含め物が多いという選択肢を選んだ方が7割から8割と高い比率であった（図14、図15、図16）。

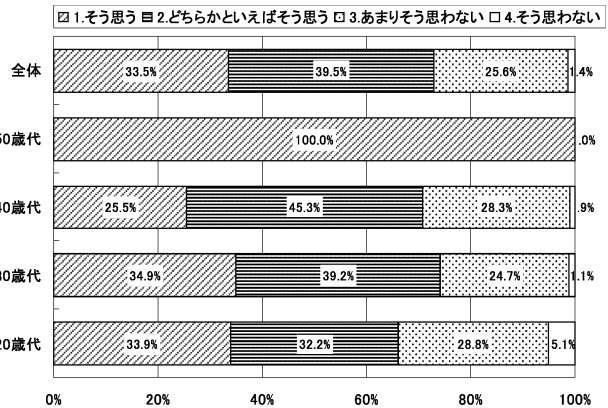


図15. 子どもの服は多いか

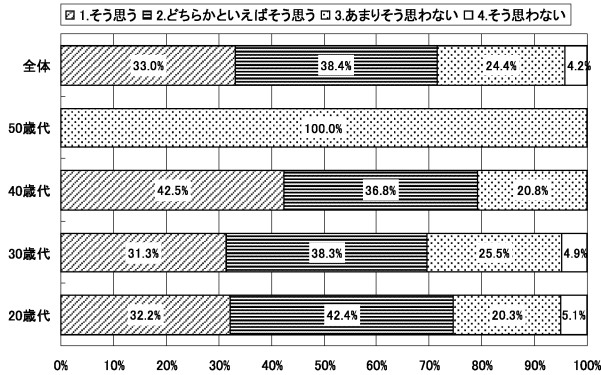


図16. 物は多いか

Q17：家庭内で不用になった物はどうされますか？

家庭内での不要品の行方を尋ねたところ、捨てる方、その一方で他への活用方法を考える方がほぼ半々で拮抗していた。物の処分についてご家庭で迷っている姿が浮かび上がってきた（図17）。

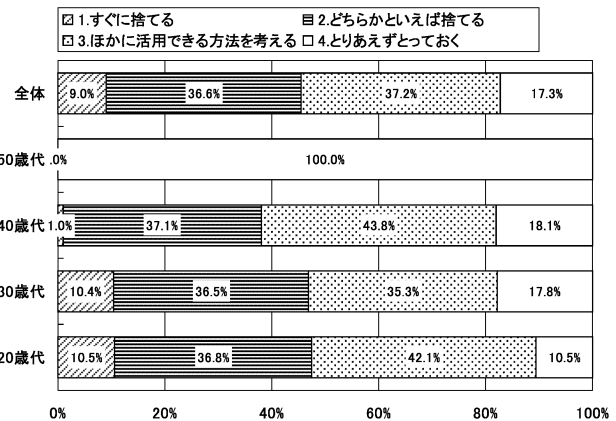


図17. 不要になった物はどうするか

Q18：子ども用品（服・小物など）は知人からのおさがりやリサイクル品を利用したことがありますか？

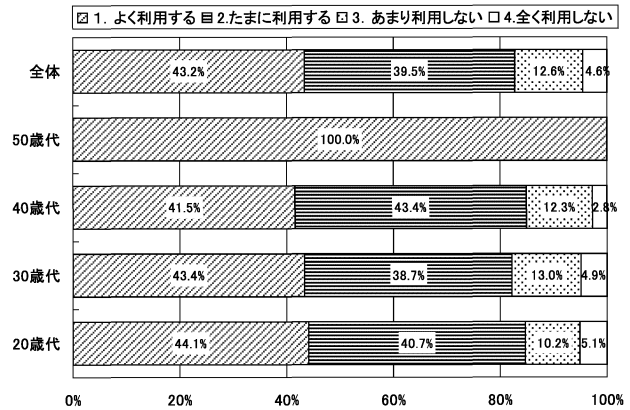


図18. 子ども用品のおさがりやリサイクル品の利用

Q19：子どもの大型生活用品（ベッド、三輪車、ベビーカー、大型玩具、自転車など）は知人からのおさがりやリサイクル品を利用したことがありますか？

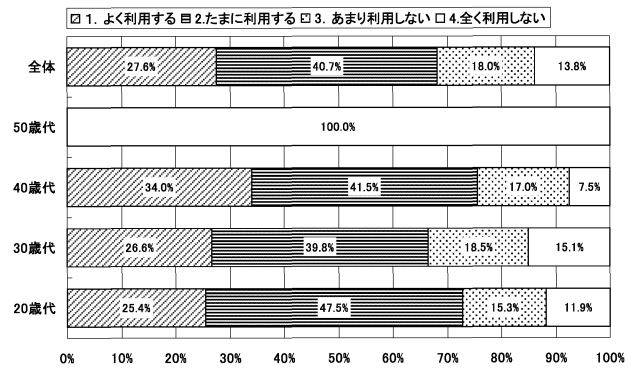


図19. 子どもの大型生活用品のおさがりやリサイクル品の利用

Q20：壊れたおもちゃや、サイズの合わない子どもの服を直して使ったことがありますか？

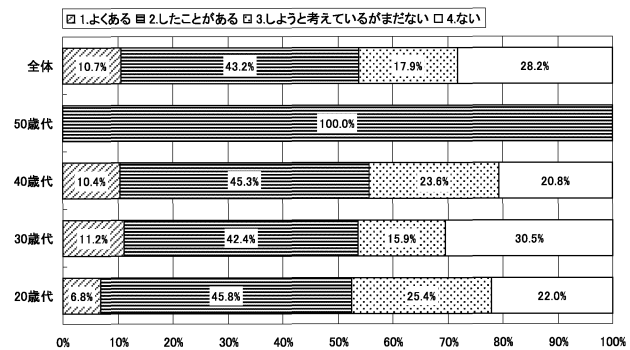


図20. 壊れたおもちゃの修理や子供服のサイズのリフォーム

これらの質問では、自分で物に手を加えて再生、再利用をすることがあるかどうかを尋ねる項目群であった。Q18とQ19で示されたリサイクル用品の積極的な利用と比べると、自分で手を動かして物を製作、再利用する方の数は少なめの結果（Q20は5割、Q21は4割）であることがわかった。しかし手作りについては、機会があれば作りたいたとする潜在的な意欲が多く（5割強）見受けられる（図20、図21）。

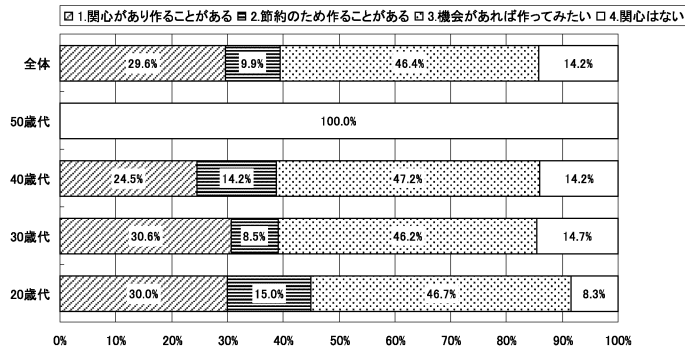


図21. 子ども用品の手作りへの関心

Q22：子どもさんが描いた絵をずっと保存しますか？

Q23：子どもさんが作った工作を保存しますか？

これらの質問では、園や家庭で製作した造形作品の保存について尋ねた。物が多いと実感しながらも（Q14、Q15、Q16）、子どもが製作した絵や工作の作品は現物で保存したいと考えている回答者が多いことがわかった。ただし工作作品については、写真に撮って残しておく手段を選んだり、保存はしないと考える回答者も親の年齢層が高くなるにしたがって増えていた（図22、図23）。

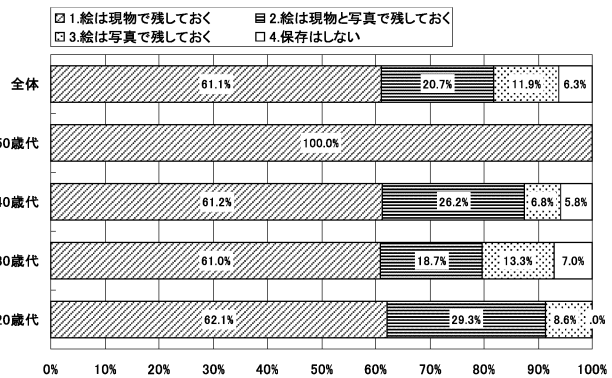


図22. 子どもの絵の保存

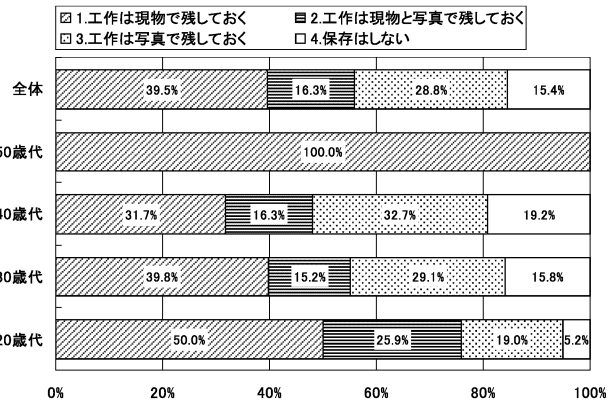


図23. 子どもの工作の保存

## 5. 物やごみに関する子どもの行動と関連する要因

本研究の目的の1つは、子どもたちのごみ減量やリサイクル意識の育成に求められることは何かを探ることであった。子どもたちのごみ減量やリサイクル意識の育成に、物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度や日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法が関連しているのではないかと考え、これら2つの要因と物の取り扱いに関する子どもの行動との相関を検定した。なお、3歳未満児は、質問項目の中にある「もったいない」「ものを大切にする」といった抽象的概念の発達が不十分であると考えられるので、ここからの分析は3歳以上の子どもを抽出して分析した。

### 1) 物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度と物やごみに関する子どもの行動との関連

物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度（8項目）と物やごみに関する子どもの行動（4項目）相関を検定した。その際に、数値が高いほど関心や態度および理解度が高くなるように、Q6以外の項目の評定値を逆転させた。なお、Q5については間隔尺度と見なせないため、削除した。

#### (1) お菓子の包みをごみ箱に捨てる行動（Q10）と親自身の関心やしつけ・態度との関連

お菓子の包みをごみ箱に捨てる行動と親自身の関心やしつけ・態度8項目との間に有意な相関は認められない。

#### (2) 物を大切にする行動・態度（Q11）と親自身の関心やしつけ・態度との関連

Q3：日ごろ子どもさんに物を大切にするように言っているか( $r=.242, p<.01$ )、Q8：ごみを分別するよう手助けしているか( $r=.225, p<.01$ )について有意な相関が認められた。

#### (3) 物を片付ける行動（Q12）と親自身の関心やしつけ・態度との関連

Q3：日ごろ子どもさんに物を大切にするように言っているか( $r=.229, p<.01$ )についてののみ有意な相関が認められた。

#### (4) 「もったいない」ということばの意味理解（Q13）と親自身の関心やしつけ・態度との関連

有意な相関を示したのは、Q3：日ごろ子どもさんに物を大切にするように言っているか( $r=.204, p<.01$ )とQ8：ごみを分別するよう手助けしているか( $r=.225, p<.01$ )であった。

以上の結果より、ごみや物の取り扱いに対する親自身の関心やしつけ・態度の中で、「日ごろ

から子どもに物を大切にするように言う」「ごみを分別するよう手助けしている」といったしつけ・態度は、子どもの肯定的なものの取り扱い行動や「もっていない」という概念形成に関連していることが示唆された。

## 2) 日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法と物やごみに関する子どもの行動との関連

日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法（8項目）と物やごみに関する子どもの行動（4項目）との相関を検定した。その際に、数値が高いほど親自身の行動や対処行動の評定が肯定的になるように、Q17以外の項目の評定値を逆転させた。なお、Q22とQ23については、間隔尺度と見なせないこと、および子どもの作品への親としての想いを測る意味合いも強い項目であるため、分析する際に削除した。

### (1) お菓子の包みをごみ箱に捨てる行動（Q10）と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との関連

お菓子の包みをごみ箱に捨てる行動と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との間に有意な相関は認められない。

### (2) 物を大切に作る行動・態度（Q11）と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との関連

物を大切に作る行動・態度と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との間に有意な相関は認められない。

### (3) 物を片付ける行動（Q12）と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との関連

物を片付ける行動と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との間に有意な相関は認められない。

### (4) 「もっていない」ということばの意味理解（Q13）と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との関連

「もっていない」ということばの意味理解と日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法との間に有意な相関は認められない。

ここで検定した日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法に関する項目は、親のエコ・環境配慮志向を反映した内容であり、子どもに直接的に働きかけるしつけや態度ではない。このような志向性や価値観は子ども、特に幼児にはわかりにくいいため、子どもの物やごみに関する行動に直接は関連しなかったものと考えられる。

#### 4. まとめ（今後の課題）

本調査における親世代は、子どもの頃に積極的な環境教育を受けてきたわけではない。しかし、次世代の子どもには教育的観点から多くの伝えていくべき事柄があり、親もまた共に学んでいく必要があると考えられる。調査項目 Q1 と Q2 の結果を比較してみると、子どもをもつまではごみとリサイクルの取り組みに関心がなくても、子どもをもつことを契機として関心をもつようになった回答者がいた。親として何をどう教えていくべきか手探りで取り組んでいるのではないかと考えられる。このような結果を含め、今回の調査では、ごみとリサイクルに関する子育て家庭の実態を把握することができた。この結果を踏まえ、行政、家庭、保育園および幼稚園、学校現場などが連携しつつ、効果的な意識の啓発や取り組みの展開を考えていく必要がある。

「物やごみに関する子どもの行動」と「物やごみに関する親自身の関心やしつけ・態度」および「日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法」との関連をみたところ、「日ごろから子どもに物を大切にするように言う」「ごみを分別するよう手助けしている」といった直接的なしつけや態度が物やごみに関する子どもの行動を促していることが示唆された。一方、親のエコ・環境配慮志向を反映した「日々の生活における物やごみに関する親自身の行動や対処方法」は子どもの行動にあまり直接的な影響を与えないのではないかと推測された。したがって、子どもたちのごみ減量やリサイクル意識の育成のためには、幼児期からの具体的な直接的な子どもへのしつけや態度が求められると考えられる。

Q24 の自由記載欄において、子どもたちのごみとリサイクルの意識を高めるために、どのような手立てや工夫が考えられるかの考えや意見を 329 件得られた。現在進行中の毎日の子育ての中、親の気づきが随所に見られ、さっそく生活の中に組み込んでいければという工夫や、生産者や製造者、社会のあり方にまで思いを巡らしている意見があった。ひとりひとりの意見を集約することで、全体の思いの方向を伝え、次の流れへとつないでいくことができると考えられる。保育や教育の立場から社会の責務をいくばくかでも担って、子どもの年齢や特性に合った支援のあり方を提案するなど実際に保育・教育の現場および家庭のサポートを目指すことの大切さを調査の中から汲みとり、今後の展開として保育・教育の立場から家庭向けプログラムを実践、提案していく必要があると考えている。

## 謝辞

本研究は平成21年度（財）名古屋市リサイクル推進公社の助成を受け実施しました。

本研究の調査に当たり、ご協力をくださった保育園、幼稚園の先生方、保護者のみなさまに心より感謝申し上げます。

## 参考文献

ドイツ環境先進都市名古屋市市民視察団報告書 2001 名古屋市環境局ごみ対策室  
 レジヨを支えるリサイクルセンター 2008 69号 現代と保育 ひとなる書房

## アンケート調査用紙

## 家庭における物との関わりに関するアンケート調査のお願い

このアンケート調査は、名古屋市のごみ減量への取り組みを受けて、名古屋市内の幼児をもつ家庭での物との関わりについて調べることを目的としています。その結果をもとにして次世代のごみ減量に対する啓発をどのように進めるかを考え、皆様に情報を提供することを行ってまいります。

本調査は、（財）名古屋市リサイクル推進センターによる平成21年度活動推進助成を受けて実施しています。

尚、ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理、分析されますので個人が特定されることはありません。

ご多忙のところ誠にご面倒をおかけ致しますがご協力宜しくお願い申し上げます。

以下の質問をお読みいただき、最も当てはまる数字を○で囲んで、ご回答ください。  
 ご兄弟姉妹がいる場合は隣に通う上のお子さんを想定してお答えください。  
 ここでは、あなた自身のことについてお伺いします。

Q1. あなたは現在、ごみとリサイクルの取り組みに関心がありますか？
1. かなり関心がある 2. 多少関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない
Q2. あなたは子どももつ前からごみとリサイクルの取り組みに関心がありましたか？
1. かなり関心がある 2. 多少関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない
Q3. 日ごろ子どもさんにものを大切にするように言っておられるほうですか？
1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない
Q4. あなたは片付けを大事だと思えますか？
1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない
Q5. 子どもさんが片付けをしない場合、どのように対処していますか？
1. 叱ってでも子どもに片付けさせるようにしている 2. 一緒に手伝って片付けるようにしている 3. 褒めたり、励ましたりして自分（子ども）で片付けるようにしている 4. 自分（親）で片付けてしまう
Q6. 大人のごみやたばこのポイ捨てをどう思いますか？
1. 自分もしたことがあり、別にかまわない 2. 自分はしたことがあるが、良くないと思う 3. 自分はしたことはないが、しかたがない 4. 自分はしたことはなく、容認できない
Q7. 他の大人がごみのポイ捨てをしているのを見た時、あなたはお子さんに真似をしないように言いますか？
1. 必ず言う 2. たまに言う 3. あまり言わない 4. 全く言わない



Q 8. あなたは、子どもさんがゴミを分別するよう手助けしておられますか？

1. いつもしている
2. できるだけしている
3. あまりしていない
4. していない

Q9. 子どもさんの行いに対して、「もったいないよ」と口に出して言うことはどの程度ありますか？

1. よく言う
2. どちらかというと言う
3. ほとんど言わない
4. 言わない

ここでは、子どもさんのことについてお聞きします。

Q10. 子どもさんはお菓子の包みはごみ箱に捨てていますか？

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

Q11. 子どもさんはものを大切にしていますか？

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまり思わない
4. 思わない

Q12. 子どもさんは片付けをするほうですか？

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまり思わない
4. 思わない

Q13. 子どもさんは「もったいない」という言葉の意味をどの程度理解していると思われますか？

1. よく分かっている
2. どちらかという分かっている
3. あまり分かっている
4. 分かっていない

Q 21. 子ども用品（おもちゃ、袋物、服等）を手作りすることに関心がありますか？

1. 関心があり作ることがある
2. 節約のため作ることがある
3. 機会があれば作ってみたい
4. 関心はない

Q 22. 子どもさんが描いた絵をずっと保存しますか？

1. 絵は現物で残しておく
2. 絵は現物と写真で残しておく
3. 絵は写真で残しておく
4. 保存はしない

Q 23. 子どもさんが作った工作を保存しますか？

1. 工作は現物で残しておく
2. 工作は現物と写真で残しておく
3. 工作は写真で残しておく
4. 保存はしない

Q 24. 子どもたちのごみとリサイクルの意識を高めるために、どのような手だてや工夫が考えられますか？お考えやご意見を自由にお書き下さい。

ここでは、子どもさんを含め物に対する取り扱いをお聞きします。

Q 14. 家庭内に子どものおもちゃは多いと思いますか？

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

Q 15. 家庭内に子どもの服は多いとおもいますか？

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

Q 16. 家庭内に物は多いですか？

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

Q 17. 家庭内で不用になった物はどうされますか？

1. すぐに捨てる
2. どちらかといえば捨てる
3. ほかに活用できる方法を考える
4. とりあえずとっておく

Q 18. 子ども用品（服・小物など）は知人からのおさがりやリサイクル品を利用したことがありますか？

1. よく利用する
2. たまに利用する
3. あまり利用しない
4. 全く利用しない

Q 19. 子どもの大型生活用品（ベッド、三輪車、ベビーカー、大型遊具、自転車など）は知人からのおさがりやリサイクル品を利用したことがありますか？

1. よく利用する
2. たまに利用する
3. あまり利用しない
4. 全く利用しない

Q 20. 壊れたおもちゃや、サイズの合わない子どもの服を直して使ったことがありますか？

1. よくある
2. したことがある
3. しようと考えているがまだない
4. ない

F 1. あなたの性別を選んで下さい。

1. 女性
2. 男性

F 2. あなたの年代を選んで下さい。

1. 20 歳代
2. 30 歳代
3. 40 歳代
4. 50 歳代

F 3. お子さんの年齢（園に通っておられる一番上のお子さんの年齢）を選んでください。

1. 零歳
2. 一歳
3. 二歳
4. 三歳
5. 四歳
6. 五歳
7. 六歳

F 4. お子さんの性別はどちらですか？

1. 女の子
2. 男の子

F 5. お子さんの園はどちらですか？

1. 保育園
2. 幼稚園

F 6. お子さんの園は何区にありますか？

1. 西区
2. 緑区
3. 天白区
4. 守山区
5. 中村区
6. 昭和区
7. 中区
8. 中川区
9. 港区
10. 瑞穂区
11. 千種区
12. 名東区
13. 南区
14. 中村区
15. 熱田区
16. 北区

これで、アンケートは終了です。  
ご記入いただいたアンケート用紙は、封筒に入れた上、封をして、アンケート回収箱に投入して下さい。

ご協力ありがとうございました。